

テーマ：新車販売台数（2014年4月）

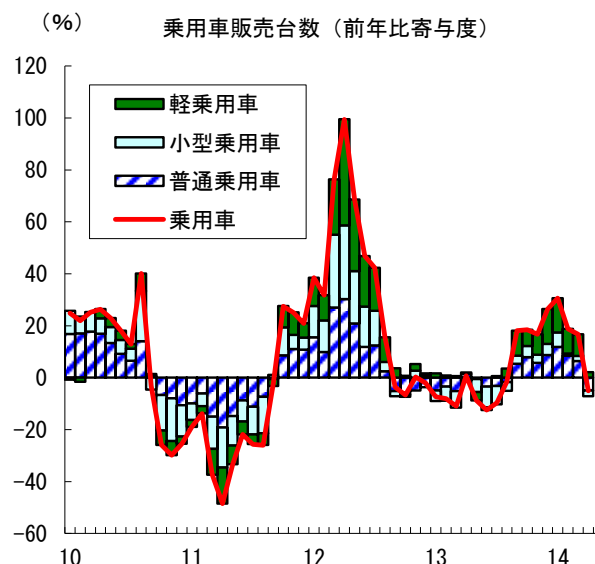
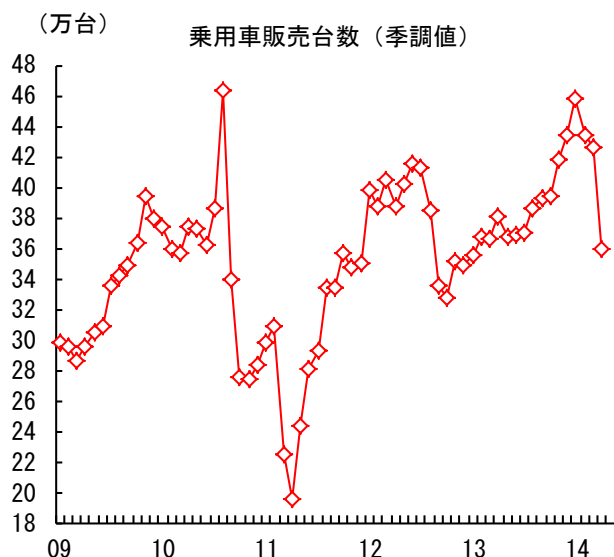
発表日：2014年5月1日（木）

～駆け込みの反動から減少も、落ち込み幅は想定の範囲内にとどまる～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 新家 義貴

TEL:03-5221-4528



(出所) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

(注) 季節調整は第一生命経済研究所

○ 減少幅は前回増税時よりも小さい

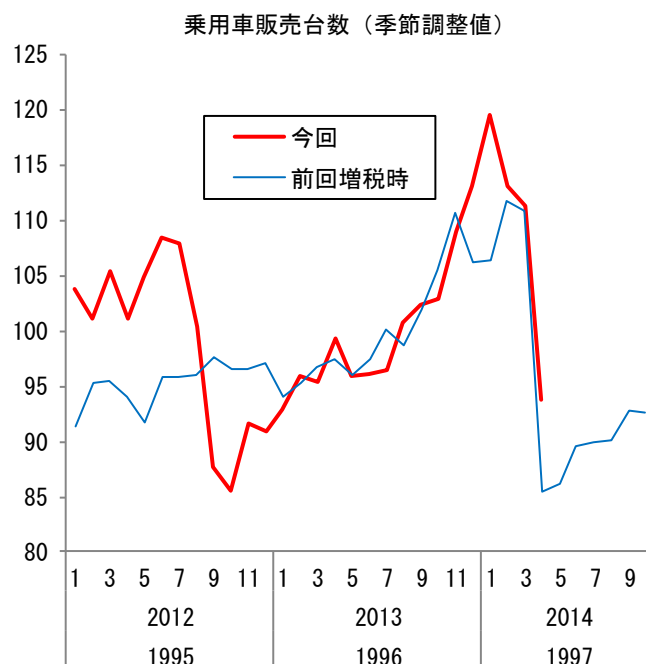
消費増税後の動向が把握できる初の月次データということで注目されていた4月の乗用車販売台数（普通・小型乗用車販売台数と軽乗用車販売台数の合計）は前年比▲5.1%（3月：同+16.7%）と、8ヶ月ぶりの減少に転じた。また、季節調整値（筆者試算。以下同様。）でみても前月比▲15.8%と大幅減である。駆け込み需要の反動がはっきり出た形になった。

もっとも、4月の落ち込み幅は思ったほど大きくない印象を受ける。前回増税時と比較すると、97年3月は前年比+14.1%（97年1-3月期：+14.1%）、4月が▲14.0%だったが、今回は14年3月が前年比+16.7%（14年1-3月期：+20.9%）、4月が▲5.1%だった。また、季節調整値では、97年4月が前月比▲22.8%、14年4月が▲15.8%である。自動車販売における今回の駆け込み規模は前回増税時よりも大きかったと判断されるが、その割に4月の落ち込み幅は前回よりも小さい。

高水準の受注残を抱えていたことが4月の販売下支えになった面があることには注意が必要で、5月以降の推移も確認する必要がある。ただ、現時点では、企業の想定範囲内の落ち込みにとどまっていると言えるだろう。

今後の回復ペースについては不透明感が強い。97年5月以降の販売台数は、前月比でプラスには転じたものの戻りが非常に弱い状態が続き、駆け込みによる需要先食いの影響が長く尾を引いた。今回も増税による負担増の重石から戻りが弱い状況が続くのか、それとも賃金増などの後押しから速やかに水準を戻していく

のか。筆者は、①97年には、特別減税の終了や社会保障負担の増加、金融不安による消費者マインドの急低下など、消費税率引き上げの他にも様々な悪材料が存在したこと、②雇用・賃金の増加が期待できることなどから、97年と比べると今回の消費の回復ペースは速くなると予想している。もっとも、増税後の家計の消費行動については不透明感が非常に強く、予想は難しい。予断を持たずに、今後公表される経済指標を確認していく必要があるだろう。



（出所）日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

（注）季節調整は第一生命経済研究所

（注）2013年平均、1996年平均をそれぞれ100として指数化